

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
1	株式会社一心助け	【特許】パンク激減・ご機嫌チューブと【特許】一体型パンク修理パッチ	<p>【特許】パンク激減・ご機嫌チューブ 特徴: 空気クッションでありながら、パンク原因の80%を解消、取扱いもこれまでのチューブと同様です。普通自転車・電動自転車・車椅子・ロードバイク用等全てのサイズが可能です。 構造: チューブ内に適量のゴム等の弾性粉粒体を入れ、タイヤ内に装着し、空気を適量入れるだけです。(内部の弾性粉粒体がチューブのリム打ちなどを防ぎ、チューブゴムの劣化を激減。 実績: 北海道1周2400km完走4台中装着自転車3台全て全行程パンクゼロの偉業 学習院サハリン悪路自転車プロジェクト200kmに参加自転車20台に装着し、全自転車パンクゼロでプロジェクト成功。</p> <p>【特許】一体型パンク修理パッチ 特徴: 誰もが簡単・確実にパンク修理ができる。 構造: チューブパンク穴中心にパッチガイドを貼り、ガイド穴内をやすり掛け→ゴムのり添付→一体修理パッチをガイド穴内に貼付→誰もが簡単確実にパンク修理ができる</p>
2	株式会社一心助け	【特許出願中】シェア、レンタサイクル事業提供システム	<p>地域の商団体・観光団体との連携強化、公共交通との連携強化事業で、商団体・観光団体や公共交通とシェア、レンタサイクル事業システム事業者との相互利益向上を図るため、シェア、レンタルサイクル事業システム事業者、又は提携先の端末から、シェア、レンタサイクル事業システム会員の観光バスを利用した観光団体が観光バスを利用する行為、又は公共交通を利用した者、又は自転車や車両持参者、又は前記使用者である外国人を含む歩行者や訪問者の端末、又はICカード、又は交通カード、又はポイントカード、又は認証カード、又は携帯電話にも、それに見合った割合のポイント、金品、運営利益のそれぞれ特典データが、 情報管理サーバーより付与送信されよう構成されたことを特徴とする、シェア、レンタサイクル事業提供システムにより、シェア・レンタサイクル事業と地方観光地や産業との協創による双方事業向上がはかれる。</p>
3	株式会社一心助け	【特許】平面画像の立体認識による分離方法・製品と【特許】鳥獣被害対策用天敵立体視シート	<p>【特許】平面画像の立体認識による分離方法・製品 特徴: ポールや虎ブロック等が平面画像でありながら、立体認識され、ぶつかる・破損事故がない・上に乗っても危なくないなど。 構造: 実物ポール等を写真に撮り、立体視変換させたシートで、コンクリート・アスファルト等に安価で簡単に設置できる。 実績: 埼玉県新製品・新技術マッチング事業採択・越谷市しらこぼと公園出入り口道路6m幅300m中央に立体視ポール平面画像30枚貼付→2年間の設置実証実験でこれまで無断駐停車や中央走行問題に対し、駐停車ゼロ、左側通行励行による混雑解消を果たした。</p> <p>【特許】鳥獣被害対策用天敵立体視シート 特徴: カラス・ムクドリ・鳩・カモ等の被害を激減させる。 構造: 天敵であるオオタカ画像を立体視シート 実績: 駐輪場・駐車場・ベランダ・ガレージ扉など頻繁なカラスの糞被害、このシートをフロントガラスやベランダから吊るし1年以上糞被害がない。 自転車等通行道路や駐輪場などの鳥獣被害軽減が期待できる。</p>
4	伊藤俊之	自転車先進地の創出に向けた自転車道の提案	<p>自転車の利用環境については大きく2ケースについて、検討されていると考えます。</p> <p>① 通勤、通学、買い物など、子供から年配者までの市民生活に関わる利用に対し、環境と健康等のため、安全と利便性の向上により利用の推進を図ること。</p> <p>② サイクリング、旅行、観光など、サイクルツーリズムの推進のため、ルートおよびルート施設の選定ならびに整備、そして受入れ体制の構築を図ること。</p> <p>そこで、①については自転車の持つ特性について、やや深く考え、地域性も考えた上で、だれでも利用しやすい道路はどんなものか、②地元の人が常に利用し、かつ外から来た人にとっても便利で、一度は走ってみたいような、世界中から注目され、自転車の街として象徴的となる道路はどんなものか。</p> <p>2003年頃に帯広市について構想した生活自転車道路を展示し、現時点では実現性が低いと思える計画について、本質的な意見をもらい、真に有効で実現可能な道路の検討に資したい。</p>

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
5	兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市、(一財)淡路島観光協会	アワイチ(淡路島一周サイクリングルート)の取り組み	<p>瀬戸内海最大の島「淡路島」の海岸沿いを右回りに一周する延長150kmのサイクリングコース「アワイチ」が、関西のサイクリストを中心に人気となっている。</p> <p>「アワイチ」は、変化に富んだコースに加え、穏やかな瀬戸内の自然や景観、地元ならではの特産品やグルメ、温泉、多くの観光スポットを楽しむことができ、サイクリストの聖地としての十分なポテンシャルを有している。</p> <p>兵庫県と淡路島内3市は、こうした淡路島のサイクリングエリアとしての高いポテンシャルを活かし、サイクルツーリズムによる地域活性化を推進するため、関係機関や地域の各種団体と「淡路地域モデルルート推進協議会」設置し、自転車の走行環境、サイクリスト受け入れ環境の改善・充実、イベントの実施や情報発信等の取り組みを連携のもと展開している。</p> <p>今回の発表では、昨年発表した取り組みに加え、しまなみ海道等、他地域のサイクリングルートとの連携(デジタルスタンプラリー)やe-Bikeレンタル、受け入れ拠点の整備等、新たな取り組みについて紹介する。</p>
6	北海道石狩市	自転車活用推進計画策定	<p>札幌市の北側に隣接し、日本海に面する石狩市。本年3月に「自転車活用推進法」に基づき、海岸沿いの絶景を求めて高まるサイクリングニーズや市街地において、自転車が安全快適に走行できる環境整備を進めるため、国内でも先駆的な「自転車活用推進計画」を策定しました。</p> <p>今後は自転車走行環境の改善、受け入れ環境の充実や健康増進に向けた施策に取り組んでいきます。</p>
7	全日本空輸株式会社、NPO法人 ツール・ド・おきなわ協会、名護市観光商工局 自転車のまちづくり推進室、日本トランスオーシャン航空株式会社、琉球国際航業株式会社 共同	名護市における「サイクリング・ゴールドルート」の取組	<p>2019年4月、国内外から多くのサイクリストが訪れる西日本の3エリア(しまなみ海道、滋賀県守山市、沖縄県名護市)が提携し、訪日客に向けた、東京、富士山や京都などのゴールドルートにならった「サイクリング・ゴールドルート」の形成・ブランド化に向けたPR動画を公開しました。</p> <p>名護市は沖縄県自転車文化の発祥地として、自転車利活用を推進しています。今年度は「名護市自転車活用推進計画」の策定に向けて、準備を進めているところです。</p> <p>今回は、名護市における「サイクリング・ゴールドルート」の取組を紹介します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サイクルツーリズム ②イベント開催、レース開催 ③イベント等での輸送サポート ④自転車通行空間の整備 ⑤自転車ラック設置 ⑥自転車マップの作成 ⑦自転車活用推進計画の策定
8	TABIRIN(パンフィックコンサルタンツ株式会社)	サイクリングを楽しむ人々と地域をつなぐポータルサイト「TABIRIN(たびりん)」	<p>TABIRIN(たびりん)は、ビギナーから上級者まで「自転車」で「旅」を楽しむ人のための、便利で楽しい情報を提供する総合情報サイトです。</p> <p>全国の自治体が作成したサイクリングマップ・コースの検索機能をはじめ、サイクリングの魅力や伝える記事や自転車×旅情報など、旅の計画から現地が必要になる情報を総合的に提供しています。</p> <p>TABIRINに登録されたコース数は、570コース、累計21,707km(2019年7月4日現在)。</p> <p>自転車×旅情報では、シェアサイクル、サイクルトレイン、レンタサイクルがある道の駅、サイクルステーションがある空港、自転車でも乗れるフェリーなど、豊富な情報を掲載しています。</p> <p>サイクリングマップや各種自転車に関する情報について、随時掲載申込を受け付けています。</p> <p>https://tabi-rin.com/</p>

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
9	堺 自転車のまちづくり・市民の会	堺 自転車のまちづくり・市民の会の活動	堺 自転車のまちづくり・市民の会は、市民の自主的な活動組織として、平成17年から「正しく、楽しく、美しい自転車利用とマナーアップ」をモットーに適正な自転車利用環境づくりに取り組んでいます。 自転車のルールとマナーの啓発を行う【さかい自転車デー】や自転車への親しみづくりとして【堺自転車の楽校】【SAKAI 散走】を実施し、市民主体の自転車のまちづくりに取り組んでいます。
10	萩田賢司・横関俊也	静岡県における車道走行自転車が関与した事故の通行方向別比較	車道を左側通行しない自転車の問題点を明確にするために、静岡県の自転車事故と先行研究の他地域の自転車交通量調査を、車道の通行場所別に比較した。単路における自転車事故の右側通行自転車の割合は、自転車交通量調査の右側通行割合より高い傾向にあることが窺え、交差点では、このような傾向が明確に示せなかった。事故類型や属性別に自転車事故を集計した結果、右側通行自転車の関与事故は、出会い頭事故の割合が高く、右側通行自転車は自動車と反対方向に走行しているため、交差側車両に見落とされやすいと思慮された。左側通行していない自転車運転者は、運転免許取得時の講習を受講していない15歳以下や運転免許非保有者の割合が高かった。自転車の通行方向別に、同一地域で自転車交通量と自転車事故を調査する必要がある。
11	国際航業株式会社	自転車マナーポイントアプリによる交差点停止・通過状況データ分析in尼崎市	2018年11月1日～2019年3月末まで兵庫県尼崎市において「自転車マナーポイントアプリ」の実証実験を行った。 「自転車マナーポイントアプリ」は、自転車の交通事故を防ぐ目的のスマートフォンアプリケーションである。 自転車交通事故の多くは交差点で発生していることに着目し、交差点で一旦停止をするとポイントが付くという地理空間情報とセンシング技術を活用した仕組みを開発した。(現在、このポイントを商業施設等のポイントと連携させるべく活動中である。) 今回は、実証実験の結果からアプリ利用者の交差点における停止回数や不停止回数及び通過傾向率・停止傾向率をヒートマップにして発表する予定である。
12	辻大樹、藤井涼、村戸伸之	日南海岸におけるサイクルツーリズム推進に向けた取り組み検討報告	宮崎県の日南海岸地域を縦走する国道・県道・市道等をサイクリングルートとして位置づけ、その利用を促進させるため、イベント等の企画や環境の整備により、自転車愛好者や観光客等の増加と利便性向上、さらに地域との交流による賑わいの創出等を図ることを目的とし、日南海岸サイクルツーリズム協議会を設立(国・県・市・民間・大学・警察にて設立)。 H30年度は、具体的な自転車通行空間の整備方針(矢羽根の設置方針、案内サインの設置方針)、サイクルマップのデザイン・レイアウトを検討し、協議会を通じて決定を図った。 今後の課題は、現場に自転車走行環境(矢羽根等)を整備した際の課題対応、サイクルマップの更新体制の検討が必要と思われる。
13	一般社団法人日本自転車販売士協会	自転車点検義務化に向けての取り組み	国内保有台数約7000万台、全ての自転車が毎日安全に移動できる乗り物であり続けるためには定期的な点検および整備が不可欠です。日本自転車販売士協会では定期点検を始めとした整備に必要な技術、知識を備えた「自転車販売士」を養成および認定をして参ります。走行中に起こりうるトラブルの多くは定期点検や確かな整備で撲滅できます。当協会は自転車の安全を守り続ける仕事に責任とプライドをもって取り組むことで信頼される安心を社会に提供します。

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
14	輪の国びわ湖推進協議会	成功するサイクルツーリズム4つのポイント 自転車まちづくり10年の実践と先進地域調査から	びわ湖一周サイクリングの推進を通じて、自転車利用促進を行っている、輪の国びわ湖推進協議会は今年設立10周年を迎えます。それを記念し、これまで滋賀県で取り組んできたサイクルツーリズム推進の取り組みや、その過程で学んできた他地域の事例を元に、サイクルツーリズム推進のノウハウをまとめた本を制作中です。その制作のため、先進地であるしまなみ海道・愛媛県等の調査も行い、その結果見えてきた、サイクルツーリズム成功のためのポイントとサイクルツーリズムが地域に及ぼす効果について発表を行います。
15	KEEP LEFT PROJECT	「KEEP LEFT」プレートで発信！	KEEP LEFT PROJECT とは、「KEEP LEFT」「自転車は車道の左側を通行」という交通ルールを、独自の発想でデザインした「KEEP LEFT プレート」で、多くの人に知ってもらうことを目的としています。 KEEP LEFT プレートをつけることで、自分自身との約束として表現することにもなり、見た人への啓蒙にもつながります。自転車の左側通行が守られれば事故は減ります！ <主な活動> ■KEEP LEFT プレートを作るワークショップ デザインされた KEEP LEFT 台紙に、絵を描いたりぬりえをしてラミネート加工し、自転車のカゴに付けられるようにします。 ■KEEP LEFT オリジナルプレートの制作販売 KEEP LEFT プレートは、みんなが自転車に付けたいと思うような、おしゃれでかっこいいアルミプレートをデザインし制作し、協力店にて販売。
16	徳島大学都市デザイン研究室	トランジション・マネジメント～自転車環境の未来を考える～	自転車の利用活用促進の動きは世界的にも見られ、脱炭素の持続可能社会のために勧めるべき政策として議論が進んでいる。しかし、我が国の現在の道路交通の制度や法律は依然、自動車交通の円滑・安全が主題にあり、自転車は副次的な位置づけから脱しきれていない。また、自転車も自動車と同じく道路交通法の規制を受ける車両だという認識が一般市民に欠如していることも、自転車利活用促進の障害となっている。これら、自転車に係る日本国内の「社会構造」を適切に変革することが必要なわけだが、今回はオランダにおいて提唱され、実践されている手法である『トランジション・マネジメント』の思考と実践事例を紹介する。更に、本手法の自転車環境へ対する適用試行として、①全国の自転車フロントランナーを集めてのワークショップ、②金沢市においてのワークショップ(企画中)を実施しており、その経過報告もさせていただく。
17	横浜市道路局	思いやりSHARE THE ROAD運動	横浜市道路局では、より安全・快適な通行環境の実現を目的に、車道を通行する仲間である自転車とクルマが互いに思いやりをもって車道を共有する意識(SHARE THE ROAD)を広める運動を進めています。 自転車利用者のルール遵守意識の向上及び自転車が車道の左側を通行しやすい環境の創出を目指すとともに、自転車ルールブック「みんなのサイクルルールブックよこはま」を活用して、自転車の安全利用についての啓発活動も積極的に進めています。

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
18	川地 遼佳	大阪御堂筋の道路空間再分配区間における滞留空間設置前後の自歩道LOSの変化	<p>近年、都市交通手段として歩行や自転車の活用に注目が集まっている中、大阪・御堂筋では、交通手段や交通量の変化など、人々の行動形態や周辺のまちの状況は時代と共に大きく変わってきている。そうした社会情勢の変化や時代の要請に対応し都市魅力の向上に資する御堂筋へと再編すべく、一部側道を閉鎖し歩道の拡幅及び自転車通行空間を整備するモデル整備事業が行われている。この空間形成には歩行者重視の考えが多く含まれるため、そうした空間形成を検討するにあたって、利用者の快適性を考慮することが求められている。</p> <p>そんな中、2017年11月の2週間、モデル区間内にベンチやテーブル等滞留空間を設ける社会実験が実施された。そこで、道路空間拡幅前・拡幅後滞留空間なし・拡幅後滞留空間ありの3段階で通行空間快適性に関する調査を行った。結果としては、自転車通行位置変化・快適性変化などが挙げられ、今後の道路空間整備の課題も見られた。</p>
19	京都市	京都市の自転車安全利用等に係る取組<空間整備, ルール・マナー>	<p>本市では、平成27年3月に「京都・新自転車計画」を策定し、自転車の「みえる化」をキーワードに、自転車走行環境、ルール・マナー等総合的な自転車施策を推進している。</p> <p><空間整備> 自転車が走行しやすい空間整備のため、平成28年10月に「京都市自転車走行環境整備ガイドライン」を策定し、車両の一つである自転車が車道の左側を走行しやすいよう、自転車の走行位置を示すベンガラ色の矢羽根マークの整備を進めている。</p> <p><ルール・マナー> 自転車の安全利用に対する市民等の意識向上を図るため、ライフステージに合わせた、京都ならではの体系だった自転車安全教室の充実に取り組んでいる。</p> <p>とりわけ、自転車事故に占める割合が高い中学生及び高校生を対象とした、開催校の周辺地域の交通事情など、より身近な環境を題材にした座学形式の教室の充実と、今後自転車デビューを迎える幼児を対象とした、キックバイクを用いた教室の充実に注力している。</p>
20	葛巻町役場	「くずまきらしさ」を活かした自転車によるまちづくり	<p>豊富な地域資源に恵まれた「葛巻」のポテンシャルをフルに活かした多様なコンテンツで、地域内経済を回すツールとしてサイクル事業を展開する。地域内経済を循環させることで、地元を巻き込んだ「地域・住民参加型」を目指し、町の中からの賑わいを創出。その賑わいを、ありのままの美しい日常と共に切り取り、デザイン力で編集・発信する。わざわざ行ってみたい葛巻」「サイクリストが走ってみたい葛巻」を広く共有することで、サイクリストの呼び込み、観光客のレンタサイクルを利用した観光の促進を図る。そのために葛巻に欠かせないのが「行政」「民間事業者」「KCTA」「町民」の役割分担と連携を明確にすることでもある。地域の地盤をしっかりと固め、サイクルのみならず、全体での連携協力を深く図って町づくりを推進する。そのきっかけのひとつとしての、サイクル事業である。</p>
21	株式会社ナビタイムジャパン	自転車NAVITIMEアプリを用いた情報提供と利用状況の分析	<p>ナビタイムジャパンは、独自のアルゴリズムを用いた技術「トータルナビゲーション」をもとに、「NAVITIME」「乗換NAVITIME」「NAVITIMEドライブサポーター」をはじめとした、各種ナビゲーションサービスを提供しています。本発表では、自転車専用ナビゲーションアプリ「自転車NAVITIME」の取り組み事例を紹介するとともに、そのアプリから取得できるGPSプローブデータと経路検索する際の発着地等を記録した経路検索条件データを用いた分析事例を紹介します。自転車専用ナビゲーションアプリから取得できるデータを用いることで、自転車利用者の走行ルート、移動目的地などが把握でき、自転車利用環境整備計画などの基礎資料として用いることが可能です。</p>

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
22	徳島県県土整備部高規格道路課	自転車王国とくしま～サイクリングコースの魅力～	<p>「自転車王国とくしま」は、誰もが気軽に参加でき、自然とのふれあいによりサイクリングスポーツを通じた徳島の新たな魅力創造や健康増進を目指した取り組みです。</p> <p>「自転車王国とくしま」では、自転車を運んできた車を無料で駐車できる拠点「王国拠点」やそこからのサイクリングコースを県内に「公式25コース」等を整備しています。</p> <p>さらに、昨年度には自転車王国とくしま公式25コースから4日間で徳島の自然、文化を巡る、観光重視のサイクリスト向けの4つのコース「自転車王国とくしま Go around コース」を設定しました。</p> <p>これらのサイクリングコースを中心に、徳島の豊かな自然や歴史、さらには(食)文化などをご紹介します。</p>
23	藤本英子	景観からみた自転車走行環境整備における路面表示の色彩	<p>2016年12月、国の「自転車活用推進法」成立を受けて自転車走行環境整備が全国的に急速に進みつつある。</p> <p>これまでも2007年に警視庁と国土交通省により『自転車利用環境整備ガイドブック』作成され、全国7都市でケーススタディが行われ、2008年には全国98地区で自転車利用環境の整備が進むまでに至った。</p> <p>しかし、全国で自転車走行環境整備が進むにつれて、景観の分野ではその路面表示などのデザインに、課題があることが明らかになってきた。</p> <p>国の自転車走行路面色の推薦色が「青色」であったため多くの自治体で彩度の高い青色の自転車路面色が広がった。全国の景観色彩を専門とするメンバーによる「公共の色彩を考える会」でも、以前からこの課題を取り上げていたが、今後全国的に自転車利用環境の整備が進む中、地域の景観を壊すことなく整備を進めるには、周辺の景観を把握した上での整備が求められる。</p> <p>この提案では「ガイド冊子」と共に、そのあり方と手法を伝える。</p>
24	水戸市	自転車通行空間「車道混在」の整備事例～幹線市道13号線～	<p>今回ご紹介させていただく幹線市道13号線は、沿線に3つの高校があるため自転車の交通量が多く、幹線道路であるため自動車の交通量も多い路線です。</p> <p>また、歩道は自歩道ではなく、横断構成は、歩道1.05m、路肩0.25m、車道2.75mとなっており、路肩が非常に狭い路線でもあります。法定外路面表示による「車道混在」の整備を行い、以下のような方策により自転車通行空間を確保しました。有識者からは、「この道路でこれだけのことができるなら、どんな道路にだってできる！」と感想をいただいております。</p> <p>■ 自動車運転者に自転車通行空間を認識させる！ 自動車運転者からの視認性を高めた自転車ピクトグラムや矢羽根による路面表示を行いました。</p> <p>■ 通行指導の実施！ 沿線高校と連携し、自転車利用者のマナー向上を図りました。</p> <p>ぜひお立ち寄りのうえ、ポスターをご覧ください。</p>
25	八重洲出版	自転車メディアとサイクリズムとの関わり	<p>自転車総合メディアCycle Sportsでは、サイクリストと自治体様とを繋げる取り組みを長年してまいりました。</p> <p>その代表が、シリーズでムックにもなっている「ニッポンのじてんしゃ旅」になります。今年でシリーズも6作目になり大人気のブランドになります。</p> <p>日本最大級の自転車総合メディア・CycleSportsだからこそできる、サイクリストの誘致活動に関して発表させていただきます。</p>

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
26	川崎市建設緑政局自転車利活用推進室	川崎市シェアサイクル実証実験	来訪者等による観光施設間の回遊性向上や商業及び地域の活性化、公共交通の機能補完、放置自転車の抑制などの行政課題の解決を目的とし、市内2つのエリアで公共施設を活用したシェアサイクル実証実験を、平成31年3月より実施している。 実証実験の着手に向けた公募型プロポーザル方式による事業者の選定や事業スキーム、ポート設置許可の手続きなど、本市の取組を紹介するとともに、実証実験後に事業の進捗に伴い生じた課題や今後の展望等について発表を行う。
27	一般社団法人市民自転車学校プロジェクト(CCSP)	デンマーク式 楽しみながら学ぶ 子ども自転車教室	自転車に乗り始める時期である幼児を対象に、キックバイクを用いて自転車ゲームで楽しみながら学ぶ実技型の教室です。デンマークで行われている子ども自転車教室の内容を元アレンジし、自転車ゲームのプログラムを構築しました。 デンマーク式は、まず自転車の安全(運転スキル)を楽しみながら身に付け、次に交通安全を学びます。しかも、人間教育の第1歩として、他社への思いやりや秩序を守るなどの社会性を育みながら、個人の様々な能力の開発を促す内容となっています。共通のビブス、ヘルメット、手袋のフィッティングに始まり、初級、中級、上級の各ゲームへと約1時間の中でレベルを上げていきます。ゲームには基本的な交通ルールも取り入れています。 「京都市自転車安全教育プログラム」における幼児の実技教育の一環として、京都市内の保育園、幼稚園で実施しています。子ども達が本当に楽しそうにイキキしており、先生にも好評で、堺市などの他の自治体でも少しずつスタートしています。小学生用、高齢者用、障がい者用のプログラムも実施しており、年代に応じた自転車教室の開発・展開を進めています。
28	立野勝真	自転車利用時の生体反応モデルによるストレス評価	本研究では、自転車通行環境に関わるストレス要因と反応の関係を計測する手法について、基礎的な知見を得るため、ストレス要因の異なる複数の通行空間において、自転車利用者における生じるストレスを、生体反応指標を用いて解析することを目的としている。ストレスに関わる運転経験差、利用環境に求められる運転タスクの程度を明示的に考慮できるように、個人差については運転経験、運転タスクについては走行コースとして具体化し、タスクの程度や運転経験などの個人差による生体反応の違いを比較した。 これらの結果より、自転車利用時の利用者挙動と通行環境、運転タスクと生体反応の関係を表現した、生体反応モデルを作成した。
29	茨城県地域振興課	つくば霞ヶ浦りんりんロードの紹介	「つくば霞ヶ浦りんりんロード」は、旧筑波鉄道の廃線敷を利用した自転車道と、霞ヶ浦を周回する湖岸道路を合わせた全長約180kmのサイクリングコースです。また、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」は、①都心から近く、②霞ヶ浦や筑波山などの豊かな自然や風景、鹿島神宮に代表される歴史的・文化的資産など多様な地域資源を有することに加え、③平坦で走りやすいといった3つの特徴があり、初心者や家族連れから上級者まで楽しめるサイクリングコースです！ 茨城県と沿線市町村では、様々な地域資源を結びつけ、東京圏からの優れたアクセス性を活かしながら、誰もが多様にサイクリングを楽しむことができる、日本一のサイクリングエリアの形成を目指しています。

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
30	Cyclists & Cycling around the World 翻訳・勉強会（主催：三国千秋）	私たちの知らない自転車利用の世界 Cyclists & Cycling Around the World	「Cyclists & Cycling around the World」は、Juan Carlos Dextre、Mike Hughes と、Lotte Bechlによって編集され、2013年に出版された、まさに世界中の自転車利用環境に関するレポートを取り纏めた書籍。 2017年から三国千秋をはじめとする有志により、翻訳の勉強会が立ち上がり、その背景や特徴についての読み込み、そして我々日本の自転車施策が学べる事について議論しています。 本書からは、欧州や北米だけでなく、南米やアフリカ、アジアなど、これまで我々が自転車施策を語る時に多くは目にしなかった国々からの事例があり、それぞれの取組の工夫、着想、そしてなにより将来を広く見据えた前向きで着実な取り組みに感銘と感化をうけています。単に直接的な自転車利用環境ではなく、経済的な自立、社会参画、教育、文化、女性の地位向上など、改めて我々も考えるテーマが多くあります。 ポスターセッションでは、本書より、これから我々の施策を行う上でのヒントとなるキーワードをご紹介します。
31	コギコギ株式会社	北海道広域シェアサイクルについて	◆今年度実施している北海道広域シェアサイクルについて紹介する。期間は6月から10月までの5ヶ月間で、インバウンドを始めとした観光客に対して、地域観光の足として電動アシスト付き自転車によるシェアサイクルを提供する。 ◆30台の自転車で、旭川空港や旭川駅など7ヶ所にポートを設置、コギコギはシステムの提供を担う。 ◆利用は順調で、旭川空港から借りて東川町（約7km）や旭川駅（約15km）に向かう利用者も一定数おり、空港でのシェアサイクルのニーズが確認された。 ◆利用者の中には展開エリアを大きく外れて富良野の方まで周遊しにいけるケースもあり、アンケート結果を通して利用者の満足度は高い。
32	㈱東急レクリエーション	サイクルカフェ「TORQUE」イベント実績発表	2018年12月渋谷ストリーム内にオープン致しましたサイクルカフェ「TORQUE」は「サイクリストフレンドリー」をコンセプトに、自転車ユーザーの感度をくすぐる自転車情報の発信に加え、自転車通勤のワーカーをサポートし、趣味や興味を通じて交流するコミュニティを提供出来るように活動してまいりました。 スパイス&ハーブをテーマに、身体を内側から磨いていき、体内の代謝（インナーサイクル）を高めていただけるメニュー提供を行い、併設されているアクティビティーコートを使って自転車関連のイベントはもちろん、スポーツや映像の上映会など様々な催しを実施することができる店舗となっております。 オープンから本日に至るまで、サイクルカフェ「TORQUE」では様々なイベントを行っております。ポスターセッションではイベント実績を中心にサイクルカフェ「TORQUE」の活動報告を致します。
33	IBS・Litec・ReFRc	自動車に依存する“地方都市”を救うため、自転車に配慮された交通環境が整う海外都市の取組みを日本に落とし込む	高齢ドライバーの事故多発、クルマ以外の選択肢がない地方都市、公共交通の衰退、中心市街地の魅力低下等、地方都市の問題は山積みである。そのような中、健康意識の高まり、急増するインバウンド、新たなモビリティの台頭等、自転車への期待は高まりつつある。 自動車に依存する“地方都市”を救うため、自転車に配慮された交通環境が整う海外都市の取組みを日本に落とし込む、展開する手法を提案する。国内では、クルマ中心で、自転車や歩行者が軽視され続けた一方、海外では、中心部は歩行者と自転車を優先し、郊外はクルマというメリハリのある都市空間を構築している。また、整備余地がない、予算ないという声も多いが、海外では、空間にあわせた整備を進める等、できることを着実に実施している。これらを国内で実装する手法として、目的の明確化、継続性、役割分担・再配分の重要性を示し、中心市街地での自転車利用環境の展開イメージを提案する。

第8回自転車利用環境向上会議in北海道・札幌 ポスターセッション発表一覧

番号	出展者	発表タイトル	発表概要
34	愛媛県自転車新文化推進課	四国一周サイクリングの推進	<p>①「CHALLENGE1,000kmプロジェクト」 ○四国一周サイクリストを公式ジャージにより可視化 ○完走者に完走証を交付 することにより、サイクリストの達成感を高め、四国一周サイクリングの認知度の向上を図っている。 【手順】 ①HPから登録 ②8,000円(税込)を入金(ジャージ等代金) ③チャレンジキット(ジャージとチャレンジパス)送付 ④四国一周にチャレンジ ⑤サイクルコンピュータ等のGPSデータを入力 ⑥完走証と完走記念品(メダル兼ベルトのバックル)の授与 ※国内29の道の駅の協力により、スタンプラリーによる完走証の発行が可能。 ②「若者応援プロジェクト」 若者が四国一周サイクリングに挑戦し、コース及び周辺の食・景観など四国の魅力を若者目線で発信。四国一周サイクリングの認知度を高める取組み。 H30/8/21～9/27に、若者10チーム(33名)がチャレンジし、食、自然、人との出会い等、体感した四国の魅力をSNSで発信した。</p>
35	愛媛県自転車新文化推進課	しまなみ海道のナショナルサイクルルート指定に向けて	<p>瀬戸内海の島々が織りなす絶景を望む、日本初の海峡を横断する自転車道として、官民一体となり、ナショナルサイクルルートの指定を視野に入れたサイクリングの利用環境向上の取組みを継続的に推進し、更なるブランド力の向上を図る。 (快適な自転車走行環境の構築) ○自転車走行環境整備(ルートの明示・案内表示) ・車道の路側に推奨ルートを明示するブルーラインと距離標の路面標示を整備 ・平成26年7月19日より自転車通行料金の無料化を実現 等 (受入環境向上のための取組み) ○地元との協働による休憩スポット・修理ポイントの整備 ○自転車を直接持ち込めるサイクルバス、サイクルトレインの運行 ○全国初のサイクリスト専用ホテルがオープン(H26.6) ○民間企業の協賛によるセーフティーマット・広告看板の設置 ○国際サイクリング大会の開催(2014・2016・2018) ○H26年に米国CNN「世界7大サイクリングルート」に選定 等</p>
36	金沢自転車ネットワーク協議会	連携と協働で歩んだ10年の軌跡～金沢の自転車施策～	<p>金沢市内では、平成19年度における全国初のバスレーンを利用した「自転車走行指導帯」(車道混在型の自転車通行空間)の整備を皮切りに、この10年間、自転車通行空間整備を継続的に推進してきた。 平成22年度には「金沢自転車ネットワーク協議会」が設立され、国土交通省金沢河川国道事務所、石川県、金沢市、警察、学識者の連携・協働のもと、「金沢自転車通行空間整備ガイドライン」の策定や「自転車ネットワーク路線」の選定など、様々な自転車施策を展開している。 金沢における10年間の自転車施策の経緯をはじめ、これまでの積み重ねで得られた効果的な自転車施策推進の6つのポイント、取り組みの効果、今後の展望などを「10年のあゆみ」としてとりまとめ、広く発信することで、金沢市内・石川県内そして全国におけるこれからの自転車活用推進の一助とする。</p>
37	株式会社自転車創業	インフルエンサーを活用した自転車観光のweb動画プロモーション	<p>自転車活用推進計画によって、自転車観光の着手ニーズが多い一方、その認知やプロモーション手段として、既存の手法はその魅力を最大化できていないと必ずしも言えない。 他方で、当社が着手しているインフルエンサーを活用したweb動画プロモーションだと、以下実現可能。 ・インフルエンサーによって、そのフォロワーへリーチかつひとけのあるコンテンツ展開 ・テキストや写真にはない情報を動画で伝達 そんな事例をいくつか発表します。</p>